

ま

ちなか芸術館オープン 旧NTTラインマンセンターを活用して

旧NTTラインマンセンターを改修し生涯学習やまちなか交流の場として、博物館の分館「まちなか芸術館」が5月1日、オープンしました。郷土の画家、故村瀬真治さんや彫刻家、故齊藤顕治さんの作品の常設展示をはじめ、市民が利用できる「まちなか交流室」、各種イベントにも活用できる「多目的ホール」や博物館が収蔵する生活や産業資料などを保管する「収蔵室」を設けています。



紋別市

平成20年

10大ニュース



2009年

丑 ← 子



2008年

ふ

ふるさと納税 寄附制度を新設

ふるさと納税は、本年度地方税法等の改正により寄附金税制が抜本的に拡充したことを受けたもので、従来は寄附における住民税の控除は10万円が下限だったが、税制改正で下限額が5,000円以上に拡充。これを受け、全国各地で寄附金を募る取り組みが本格化しています。紋別市でもかけがえのない自然を守り育てる事業や地域の活性化につながる事業の財源として活用するため10月1日より全国から寄附を募る取り組みを始めています。

オホーツクの流水と自然を守る寄附金



初

の韓国映画ロケ

韓国の若手俳優イ・ミンギさんと日本の女優池脇千鶴さん主演の韓国映画「Oishii Man (おいしいマン)」のロケが2月に行われました。

上藻別駅通を中心に、流氷砕氷船ガリンコ号やオホーツクタワーのクリオネ、紋別空港などでロケが行われ、多くの市民が、俳優やスタッフの食事の用意などに協力したほか、エキストラとして撮影に参加しました。誘致を進めてきたオホーツク紋別フィルムコミッションは、「本格的な映画撮影は初めてのことで、このロケをぜひ地域の活性化につなげたい」とロケ後もいろいろな取り組みを進めています。



西

紋広域ごみ処理 検討段階から推進体制に向けて合意

これまで広域化が可能かどうか検討を進めてきた西紋4市町村（紋別市・滝上町・興部町・西興部村）の広域ごみ処理施設整備に関して、10月28日に将来的に参加する雄武町を含めて開催された市町村長会議で、処理方法・建設地・費用負担方法等を検討した結果、広域化を推進することで合意しました。

平成21年度からは、測量地質調査・生活環境影響調査・施設整備基本計画といった施設建設に向けての本格的な準備が進められ、平成24年度中の施設稼働を目指しています。

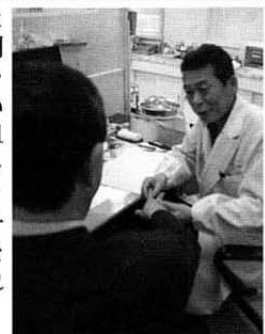


夜

間、休日の救急体制危機

4月1日から道立紋別病院での夜間・休日の二次救急受入れが一時休止されたことに伴い、紋別医師会と道立紋別病院では、輪番制による夜間・休日の一次救急を担っています。紋別医師会では、平成21年3月までは現体制を維持していくこととなりました。

平成21年4月以降は市で一次救急が担えるような体制を整備していくことで進められています。



広域で医療の確保

道立紋別病院は西紋別地域唯一の総合病院で、地域センター病院としての役割を果たしてきましたが、新医師臨床研修制度などを契機に医師不足となった影響から常勤医師が急減し、二次救急対応が出来なくなるなどの状況にあります。このような状況下、現紋別病院が道立病院の枠組みのままでは、医療に対する地域のニーズを満たしていくことが困難と考え、西紋5市町村は広域連合による病院運営を検討しています。「西紋別地域における医療の広域化検討協議会」では、常勤医26人体制とし、診療科目・機能については、道立紋別病院の現体制を維持する方針が確認されました。

なお、同検討協議会では新病院での医療提供のスタートを目指し協議が進められています。



安養園民営化再募集

民間移管が2月下旬に発表され、唯一応募した社会福祉法人福正会（松野正吾理事長予定者）が選定委員会にて受託事業候補者に選定されましたが、透明性の確保や市民的理解が得られないことなど総合的に判断した結果、宮川市長が不承認とし、その後、検討を重ね、12月1日から再公募を開始しました。

民間移管は、平成22年4月を予定しており、移管条件は前回同様、建物や車両、備品等は無償譲渡、土地は当分の間、無償貸与としています。その他、応募資格に、本市の元特別職等、現特別職等の親族、市議会議員並びにその親族が法人役員に就任する場合は応募者となれないなど、市独自の制限を設けています。

宮川市長は、「民間移管は1年遅れたものの、透明性は確保できる」と話しています。



北高閉校式 66年の歴史に思いを馳せ

平成21年3月で閉校する紋別北高校（生徒数185人）の閉校式が11月1日、同校体育館で開かれました。在校生や教職員、卒業生約500人が出席した式典では、スクリーンを使った映像を用いて66年間の歴史を振り返ったほか、歴代校長への感謝状も贈られました。

式典では、物故者への黙とう、国歌斉唱の後に柏木校長が挨拶。柏木校長は、「紋別北高は、オホーツクの豊かで四季の美しい変化のなか、これまでに有能な人材を数多く輩出してきた」と述べ、戦時中の昭和18年から66年にわたる歴史をつぶさに紹介。また、在校生を代表して生徒会長の谷口亮君が『紋北』が閉校しても、それは終わりではなく新たな始まりです」と力強くあいさつしました。その後、校歌を斉唱した後、学校祭の合唱コンクール課題曲の「旅立ち」を生徒全員で歌い上げていました。



新しい総合計画が議決

平成21年度から10年間のまちづくりの長期的方針となる「第5次紋別市総合計画」が第4回紋別市議会定例会において議決されました。

本計画は、市民の代表からなる紋別市総合計画審議会の設置をはじめ、市民の意向調査や地区別懇談会などを重ね取りまとめたものです。

将来都市像を「流水と大地の恵みを活かし 人が輝き躍動するまち もんべつ」と定め、地域の個性を生かし、住んでいて良かったと思えるまちづくりを目指し、平成21年4月から本計画を基本に各分野で取り組みが進められます。



中心市街地に公営住宅建設開始 道営が幸町に、民営が本町に

中心市街地に公営住宅の建設が相次いでいます。幸町6に道営住宅「であえ〜る幸団地」(39戸、平成21年9月完成予定)が、本町2では市内で2棟目となる公的賃貸住宅(12戸、平成21年3月完成予定)

がそれぞれ建設中。道営住宅には、シルバー向け住戸、子育て支援型住戸を備えています。空洞化が進む中心市街地だけに、まちの賑わい復活にもつながると期待されています。

